

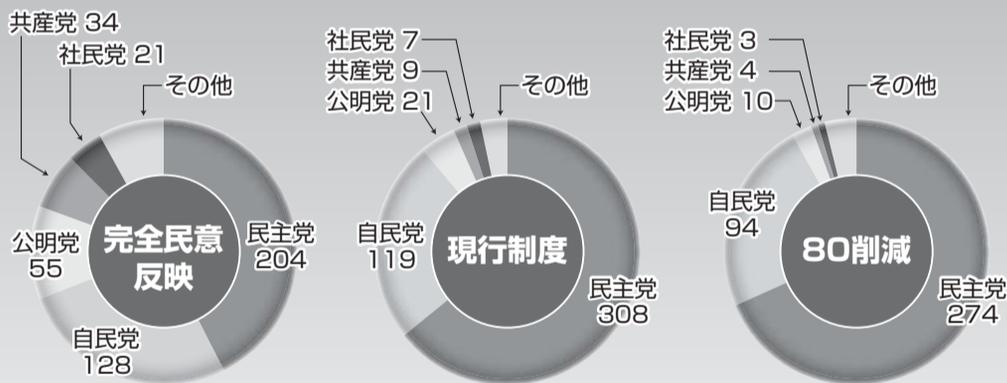


「多様な民意を反映する国会に、 私たちは、比例定数の 削減に反対です。」

「ムダを省く」という名目で、今、衆参の国会議員定数を減らそうという動きが強まっています。たしかに、議会中に汚いヤジを飛ばしたり居眠りをしたりと、「ムダ」と思える国会議員は少なくありません。今こそ襟を正し、国民の声を政治に反映させる議員としての職責を誠実に果たしてもらうことが必要です。

そうした反省をすることなく、なぜ、国会議員の数を減らそうとしているのでしょうか。そのことは私たちの生活・権利とどのように関わってくるのでしょうか？

民意をさらに歪める比例定数削減



09年総選挙でのシミュレーション

民意を国会の議席数に忠実に反映させることが、議会制民主主義の出発点です。09年総選挙の比例代表の得票率をもとに試算したのが上の表です。

各党の得票率を完全に議席反映させた場合と現行の選挙制度とを比較すると、民主党は100議席以上も超過議席を得ているのに対し、公明党は34議席、共産党は25議席、社民党は14議席を失っていることになります。

さらに比例を80削減した場合、

- 民主党 (得票率 42.41%) → 274議席 (議席占有率 68.5%)
- 公明党 (得票率 11.45%) → 10議席 (議席占有率 2.5%)
- 共産党 (得票率 7.03%) → 4議席 (議席占有率 1.0%)
- 社民党 (得票率 4.27%) → 3議席 (議席占有率 0.8%)

となり、民主党が本来得られる議席の1.6倍を獲得する一方、公明党で4.5分の1、共産党にいたっては7分の1の議席しか得られないことになります。これが公正な選挙制度と呼べるのでしょうか。

「ムダを省く」というのなら...

与党や自民党は、「身を切る」必要があるから削減するのだといいます。しかし、それを言うなら、最初に行うべきことは、政党助成金 (320億円) の廃止でしょう。それこそがもっとも簡単な「身を切る」方法です。日本の政党助成金は、総額でも議員一人あたりの額でも世界一高額であり、さらに使い途についての制限もなく、使い道の報告にあたっては領収書の添付すら求められません。こんなルーズな政党助成金の制度を取っている国は外にありません。

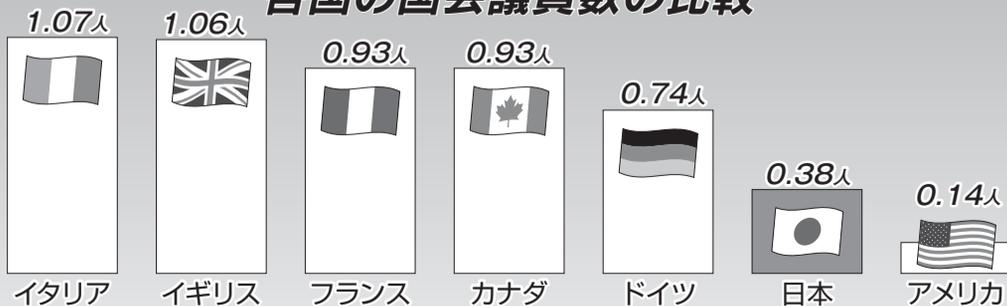
ちなみに、議員定数を80人削減したとしても削減できる経費は56億円にしかありません。

世界一高い政党助成金!!



- ドイツ ▶ 147億4199万円 (日本の1/2)
- フランス ▶ 98億円 (日本の1/3)
- イギリス ▶ 3億円 (日本の1/10)

各国の国会議員数の比較



(人口10万人辺りの下院議員数)

今でも少ない日本の国会議員

1946年に新憲法のもとで国会がスタートするとき、人口15万5千人に国会議員1人という考え方でスタート、公職選挙法も「国勢調査に応じて議員数を見直す」ことになっています。現在の衆議院は、人口27万人に対し国会議員1人。イギリスでは9万人に1人、フランスでは10万人に1人、ドイツでは13万人に1人です。これに比べ日本の国会議員の数は多すぎるのでしょうか。むしろ足りないのではないのでしょうか。